

CSR SECTION

CSR情報

お客さま	42
従業員	44
株主・投資家	46
取引先	47
地域・社会	48
地球環境	50

CSR基本方針

ヤマハ発動機グループは、社会からより信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にし、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。

取引先においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

お客さま

- 安全で高品質かつ革新的な製品とサービスを通じて、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供します。
- 製品に関する有益な情報を分かりやすく提供します。
- お客さまをはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護の徹底に努めます。

株主・投資家

- 長期安定的な成長を通じた企業価値の向上をめざします。
- 事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。

従業員

- 均等な雇用機会を提供し、従業員の多様性を認め、差別を行いません。
- 公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。
- 人権を尊重し、いかなる形であれ児童労働・強制労働は行いません。
- 従業員と会社が、相互信頼に基づき、誠実な対話と協議を行い、お互いに繁栄するよう努力します。

取引先

- 調達先や販売店などの取引先を尊重し、相互信頼に基づき、長期的視野にたって相互繁栄の実現に取り組みます。
- 調達先の決定にあたっては、国籍や規模にかかわらず広く世界に門戸を開き、総合的な評価に基づき判断します。
- 各国・地域の競争法を遵守し、公正な取引を維持します。

地域・社会

- 各国の文化・慣習を尊重し、企業市民として社会との調和に努めます。
- 納税、雇用創出、モビリティ創出などを通じて、健全な地域社会の発展に貢献します。
- 人材育成、環境保全、交通安全普及など社会貢献活動を推進し、また従業員の自主的な活動を支援します。
- 行政府諸機関との健全かつ公正な関係を維持します。

地球環境

- 環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。
- 限りある資源を大切に、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。
- 幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。

お客さま



お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

お客さまとの関係をより密に続けていくことによって高めてきたもの、それがヤマハ品質、モノ創りの基本であり、これからも「お客さま基点」の考え方を活かした品質の向上と充実の努力を続けなければならないと考えています。そのために、あらゆる部署がそれぞれの仕事の質を高める努力をしています。そして、ヤマハ発動機グループにとってお客さまの安全はなによりも大切なもの。製品を使用されるお客さまが怪我をしたり事故にあわないために、製品の質を高める活動はもちろん、製品の正しい使い方をお客さまに適切にお伝えする活動にも最大限の努力を続けています。ここでは、ヤマハ発動機CSR基本方針に掲げているお客さまとの関わりにおいて、継続的に取り組んでいる活動の一部をご紹介します。

品質向上への取り組み

「ヤマハブランド憲章の精神に則り、豊かな『感性』を尊重し、お客さま基点に立ち、高品質な製品とサービスを効果的に具現化するために、最良品質を指向し最適水準の創出により安全性・信頼性を実現し、常にお客さまに安心と信頼そして感動を提供」することを実現するために、グループ全体がさらなる品質向上を目指しています。

新たな感動の提供

当社が企業目的として掲げる「感動創造企業」とは、社会や環境との調和を図りながら、製品やサービスを通じて世界の人々に喜びや驚き、高揚感、豊かさや幸福感をもたらすものです。その実現のために私たちは、「モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける会社」でありたいと思います。モノ創りの原点はお客さまです。製品の魅力・信頼性・価格、すなわちお客さまへの提供価値を最大・最良化し、さらにお客さまの期待を超える価値を実現することによって、競争力を高めることが私たちの使命であると考えています。

当社ウェブサイトでは、「新たな感動」につながる製品・技術の一部をご紹介します。

[空から農業を変える ～産業用無人ヘリコプター編](#)

<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/brand/>



◀この動画は、上記ウェブサイトからご覧いただけます。

お客さま対応/サービス

ヤマハ発動機グループでは、お客さまからのご意見・ご要望は、製品やサービスへの期待の現れであり、一つ一つに対する誠実な対応がお客さまの満足度を高め、信頼につながると考えています。お客さまの製品への評価や使用状況を知り、品質改良や将来の製品づくりに活かすために、サービス対応の強化に取り組んでいます。

安全運転普及活動

ヤマハ発動機グループはお客さまの安全を第一に考え、製品の質を高める活動はもちろん、製品の正しい使い方をお客さまに適切にお伝えする活動にも最大限の努力を続けています。それは、お客さまに製品の魅力を伝えるカタログなどの広報物にはじまり、各製品の取扱説明書に正しい使い方を記載すること、実際の使い方をよりご理解いただくライディングスクールをはじめとした安全普及活動など、多岐にわたります。

TOPICS

ブラジルにおける事例

当社は、2010年から毎年ブラジルで警察や消防隊を対象に、バイクを安全に、正しく、効果的に役立てていただくための「YRA OFFROAD SPECIAL TRAINING FOR POLICE」を実施しています。

2015年10月にはヤマハ発動機のトレーナーとYMDB(ブラジル代理店)の現地トレーナーが講師を務め、42名の隊員にオフロードでの走行技能を高める訓練を行いました。

ブラジルは路面舗装状況が悪くまたオフロードも多く、隊員にはさまざまな状況下でもバイクを適切に操縦し、迅速かつ安全に運転する技術が求められることから、警察およびYMDBと検討を重ね、YRA基本プログラムに現地要件を加えたカリキュラムで行われています。

当社商品の特色を活かした安全運転講習を通じて、行政活動の円滑な運営にも貢献しています。

[詳しくはこちらをご覧ください。](#)

<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/customer/riding-safety-promotion/brazil/>



従業員

グローバルな視野から価値を共有できる組織づくり

ヤマハ発動機グループでは、グローバルな視野から個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

人材育成／キャリア支援

ヤマハ発動機は、ますます高まる世界規模でのビジネス展開を踏まえ、これまで以上に、コーポレート・ガバナンス、人材開発等に取り組むことが必要となっています。特に、人材開発面では、グローバルな育成プログラムを充実させながら、2018年までに海外拠点役員クラスの60%にローカルタレントを登用することを目指しています。

仕事と生活の両立支援

自立的で創造的な仕事環境を目指して

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、育児・介護休職制度などのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を確保した職場づくりを目指しています。また、従業員が各自の状況に適した働き方ができるように選択肢の充実に取り組んでいます。

職場の安全衛生

安心して快適に働ける職場環境を目指して

ヤマハ発動機では、中央安全衛生委員会が中心となって、安全な労働環境の整備をグローバルに推進しています。労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS[※])に基づいてリスクアセスメントを実施、職場の潜在的な危険性や有害性の発見に努め、労働災害防止活動に取り組んでいます。また、安全管理者研修や監督者の能力向上研修などの階層別の教育・研修、安全衛生大会の開催などを通じ、安全を支える人材の育成にも注力しています。

※OSHMS: Occupational Safety & Health Management System

多様性を活かした職場づくり

ヤマハ発動機グループでは、持続的な成長を確保するために、異なる経験、スキル、属性を反映した多様な視点や価値観が重要と考え、多様な人材の確保を目指しています。そのために、本社にグローバル人材開発部を設置し、全世界共通の幹部社員育成プログラムの開発・運用、競争力のある人材を育成・登用するためのグローバル人事制度の導入、またグローバルな経験・見識を活かす組織づくりを進めています。

グローバル経営を進めていく上で、国籍・原籍を問わず優秀な人材の経営幹部への登用を進めています。特に、海外子

会社の経営幹部層については、現地人材の積極的な登用を進め、2018年までにその60%を現地化することを目指しています。同時に、本社人材の育成にも継続して取り組み、現地人材と経験やスキルを相互補完しながら経営力を最大化する組織づくりを進めています。

また、女性の活躍促進のため、女性の管理職登用数を2020年までに2014年の2倍、2025年までに3倍とする目標を公開し、推進します。ヤマハ発動機では、外国人幹部の登用、外国人社員採用を増やす、女性管理職を増やす、働き方の選択肢を増やす等、さらなる多様性の推進に努めています。

TOPICS

障がい者雇用促進のための新会社設立について

ヤマハ発動機株式会社は、障がいのある方が能力と適性に応じて活躍できる場の提供と社会的自立の促進を目指し、新会社「ヤマハモーターMIRAI株式会社」を2015年10月1日に設立しました。

当社はこれまで障がい者と健常者が一緒に就労できる職場運営を行うという考え方のもと、職場環境の整備に努め、さまざまな職種で障がい者の雇用を推進してきました。

新会社では、知的障がいの方をはじめ、さらに多くの障がい者の方々が個々の能力を発揮できる職場を確保することで雇用促進に努めるとともに、社員それぞれの能力開発を進め、社会的自立を支援していきます。

[詳しくはこちらをご覧ください。](#)

<http://global.yamaha-motor.com/jp/news/2015/0701/mirai.html>

株主・投資家

ヤマハ発動機では株主・投資家の皆さまに正確かつ適切な情報を適時に提供し、説明責任を果たすために、専門部門を設置して国内外でのIR活動を実施しています。

四半期ごとの決算・株主総会に加え、海外の投資家訪問によるIRミーティングや、IR情報のウェブサイトでの開示、個人投資家向けのウェブサイト運営も行うとともに、アナリスト・ジャーナリスト向けに、事業説明会を行い、その模様を動画でウェブサイトに公開することで、より多くの株主・投資家の皆さまが当社経営戦略の理解を深めていただけるよう、情報開示に積極的に努めました。

ヤマハ発動機 新中期経営計画(2016年~2018年)

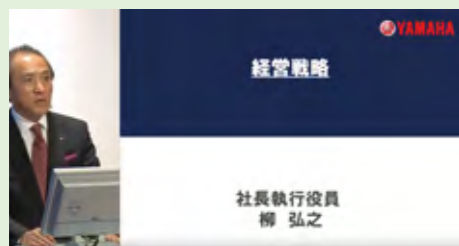
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/mtp/>

中期経営計画発表資料

<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/mmp/2016medium-plan.pdf>

ヤマハ発動機 中期経営計画(2016年-2018年)発表会動画

<https://www.youtube.com/watch?v=NU7TAZ1Y-3M&feature=youtu.be>



株主や投資家の皆さまに向けた情報は、ウェブサイトの「IR情報」で開示しています。

ディスクロージャーポリシー
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/policy/>

配当方針
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/dividend/>

IR情報(トップページ)
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>



IRサイト

取引先

協働と公正の精神に基づくグローバル調達・販売ネットワーク

ヤマハ発動機の製品は、国内外のさまざまなサプライヤーとの協働によって成り立っています。ビジネスのグローバル化によって拡大していく調達・販売体制の中で、ヤマハ発動機グループは「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づいて国内外さまざまなサプライヤー・販売店との協働関係を確立しています。そのため日ごろから、各国・地域の競争法を遵守した公正な取引の維持に努め、ともに持続可能な成長を目指すパートナーとしての関係構築に取り組んでいます。

サプライチェーンでの取り組み

ヤマハ発動機グループでは、サプライチェーンとの関係において、「モノを買う調達」だけではなく「コストと品質を一緒に創りこむ“モノ創り調達”」という考えを重視しています。

この活動例として「理論値生産^{*}」のサプライヤーへの展開があります。これはサプライヤーに対して単にコストダウンを要求するのではなく、モノ創りの絶対価値をサプライヤーの皆さまと分析設定し、どうコスト競争力を高めるかに向けてともに取り組んでいくものです。

ヤマハ発動機では「理論値生産」を国内外のサプライヤーに展開を進めるために「理論値インストラクター」として社員を教育し派遣することで、ともにコスト競争力強化に取り組ん

でいます。また、環境負荷低減・資源エネルギー効率活用のための「グリーン調達ガイドライン」や、安全・品質・コンプライアンスに関する「調達先CSRガイドライン」についての研修会などを通じて公正でクリーンな調達活動をグローバルに推進しています。

※理論値生産：生産におけるさまざまな作業を分析して本当に価値を生む作業だけを価値作業とし、それ以外を排除していく作業ロス削減手法の一つです。一般的な手法が現状からみたムダの排除を積み上げていくのに対して、最初に理論上の価値作業を分析設定し、その実現に向けた改善に取り組むものです。

販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を担っています。ヤマハ発動機グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

日本では、ヤマハスポーツバイクディーラーであるYSPを主とした販売店とグループ会社のヤマハ発動機販売(株)が協働で、二輪車の社会環境づくり、マナー促進活動、二輪車リサイクル、植樹キャンペーン環境活動、盲導犬育成募金活動などに取り組んでおり、地域や社会との関係構築において重要な役割を担っています。

地域・社会

ヤマハ発動機グループの活動拠点は、世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて、信頼関係を維持・向上することが

大切であると考えています。

ヤマハ発動機グループの取り組む社会貢献活動は、「将来を担う人々の育成」「地球環境の保全」「交通安全普及」「地域社会の課題」の4つを重点領域としています。

ここでは年度ごとの活動を集計した社会貢献活動の中から、一部の事例をご紹介します。

社会貢献活動の重点領域

取り組みテーマ	グローバル課題			ローカル課題
	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題
活動内容	・スポーツを通じた心身の育成 ・モノ創りを通じた創造性の育成、など	・地域社会への環境教育 ・生物多様性の尊重、など	・社会への交通安全教育 ・啓発活動、など	・当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など

将来を担う人たちの育成

実務訓練学生(インターンシップ)の受け入れ(日本)

ヤマハ発動機グループでは、さまざまな企業活動を通じて、各国地域の将来を担う人たちの育成に向けた取り組みを行っています。

ヤマハ発動機本社では、産業保健研修講座として、近隣の医療関連の大学や専門学校の学生を年間約10数名、20年以上継続して受け入れています。

また日本のYEC[※]では、2015年で技術者を目指す学生のインターンシップ受け入れが10年目となり、累計32名となりました。

※YEC:YAMAHA MOTOR ENGINEERING CO., LTD.



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。
<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/human-resource/archive/index.html>

地球環境の保全

ビーチクリーン活動

沿岸漁業の振興やマリンスポーツ普及でなじみの深いビーチの環境保全を目的とした「ビーチクリーン活動」は、世界に点在するヤマハ発動機グループ各社で継続的に取り組んでいます。

2015年6月にはベトナムのYMVN[※]でビーチクリーンアップキャンペーンに社員300人が参加しました。

また日本のヤマハ発動機本社では、近郊の海岸で活動開始から2015年で25年目となる子ガメ観察会&ビーチクリーン作戦を開催しました。ヤマハ株式会社との合同ブランド連携強化活動の一環として総数約500人が参加しました。

※YMVN: Yamaha Motor Vietnam Co., Ltd.



ベトナムでのビーチクリーンアップキャンペーン



日本での子ガメ観察会&ビーチクリーン作戦

その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。
<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/environment/archive/index.html>

交通安全普及

世界各地で開催されるYRA

(ヤマハライディングアカデミー)

ヤマハ発動機グループでは、世界各地で二輪車での交通事故減少を目的とするさまざまな安全運転プログラムを実施しています。

コロンビアのIncolmos^{※1}では、2015年まで350人を超える女性ライダーに、交通ルールの基本や安全運転、危険予知の重要性を学ぶプログラムYFRT^{※2}を実施しました。

※1 Incolmos: Industria Colombiana de Motocicletas Yamaha S.A.

※2 YFRT: Yamaha Female Riding Academy



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。
<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/safe-driving-diffusion/archive/index.html>

地域社会の課題

「Feed The Children」コーポレートパートナー YMUS[※]

アメリカのYMUSは、1994年から現地の「Feed The Children」(<http://www.feedthechildren.org/>)のコーポレートパートナーとして、貧困に苦しむ子どもたちへの寄付を続けています。2015年には、YMUS本社で寄付食糧と物資の贈呈式が行われました。

※YMUS: Yamaha Motor Corporation, U.S.A.



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。
<http://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/local-society-task/archive/index.html>

地球環境との調和に努め持続可能な社会の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、2010年に策定した『グループ環境計画2020』に基づき、地球環境や社会との調和に努め社会的責任を果たす企業を目指します。

環境活動の計画

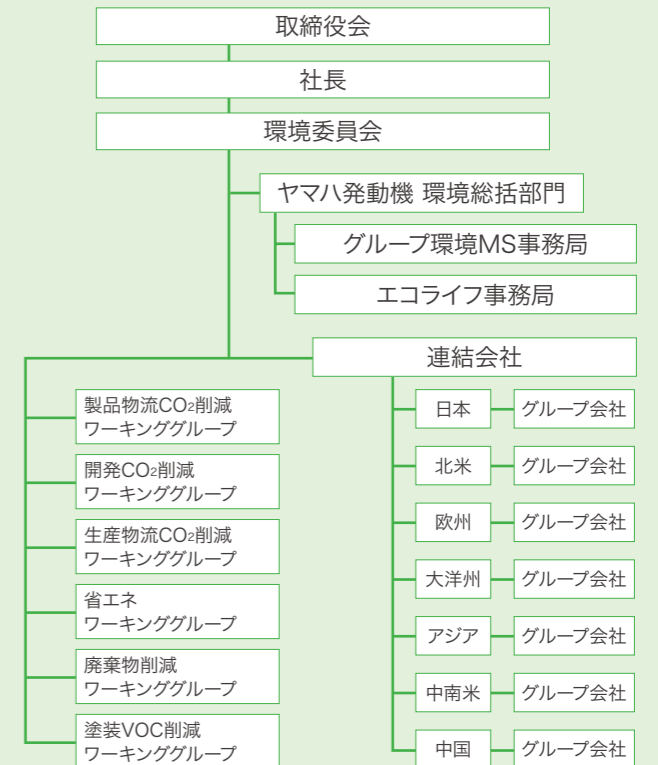
ヤマハ発動機グループ環境計画2020

取り組み分野		重点取り組み項目	2020年目標
エコプロダクツ	環境・お客さま基点の製品開発による『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン“Frontier2020”として展開する	
		「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の把握と代替の推進
エコオペレーション	環境負荷最小化を目指したグローバルな事業活動による『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO ₂ 原単位で年平均1%削減
		「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と循環利用の促進
エコマネジメント	グループ環境ガバナンスの仕組み強化による『環境管理』	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の連携が取れている
エコマインド	持続可能な地球環境を目指した多様なエコ活動による『環境貢献』	「継続的な環境教育による意識改革」	グループ全員が高い目標意識で環境取組を積極的に行っている
		「感覚環境(臭気、騒音など)の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、敬愛を受けている
		「環境を切り口とした積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から高い評価を受けている

環境経営を推進する体制

ヤマハ発動機グループでは、代表取締役副社長を委員長とする「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環境に関わる活動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。審議された方針や活動については、取締役会に報告を行っています。

ヤマハ発動機グループの環境企画・推進組織



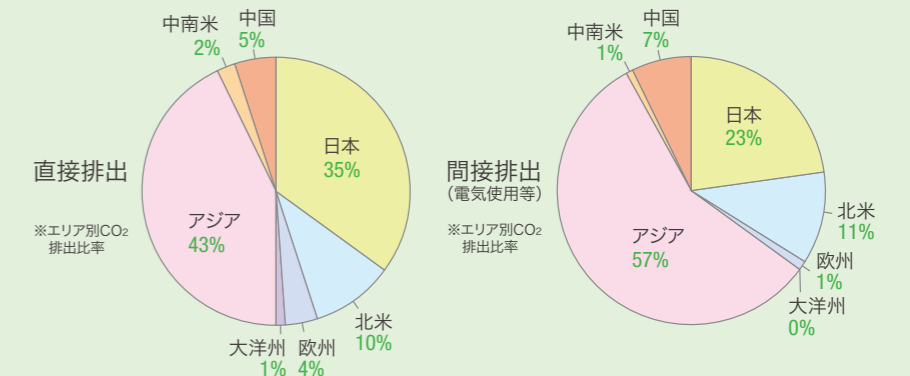
直接/間接排出ごとの温室効果ガス排出量の把握と排出量削減活動

ヤマハ発動機グループでは、温室効果ガスの排出において、エリア別に、企業活動に伴う工場で使用される燃料の燃焼等からの直接的な排出と、工場・オフィスでの電力使用等による間接的な排出を把握し、その削減に努めています。

今後も、エリア別の直接・間接排出量をより詳細に把握し、各工場・各事業所ごとに一層の排出量削減に向けた活動をしてまいります。

直接排出量
14.9万 t-CO₂

間接排出量
40.8万 t-CO₂



ヤマハ発動機グループのCO₂排出量の推移

ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーであり、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として取り組みを進めています。

グループ共通の目標としては、「CO₂原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発、製造など、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。

また、グローバルユーティリティコスト削減活動を2013年より継続的に行っており、環境性(CO₂削減)に加え、経済性と両立を目指した活動を展開しています。日本で培った省エネ技術を国内および海外グループ会社へ展開することで、グループ全体を通じた効率的な活動となっております。

CO₂排出量 **55.7万** t-CO₂

ヤマハ発動機グループのエネルギー投入量

ヤマハ発動機グループでは、電力使用量削減のため、電力見える化設備導入による現状分析と削減活動の実施、工場への省電力設備の導入、事務所におけるLED照明の導入などに計画的に取り組んでいます。

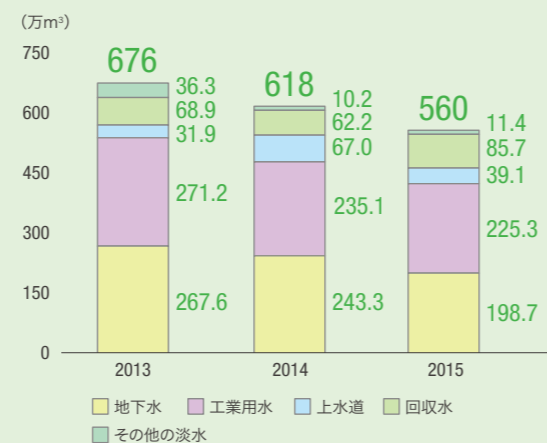
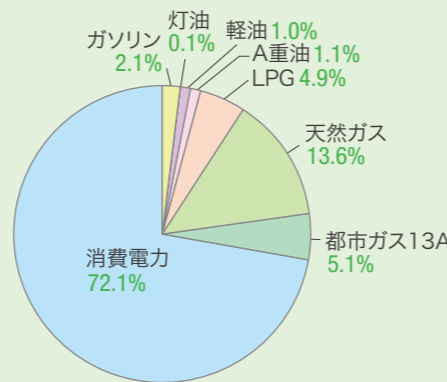
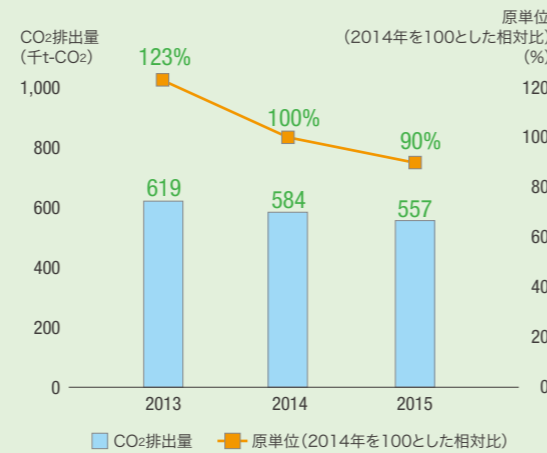
総エネルギー投入量 **1,051万** GJ (電力**758万**GJ)

水資源の把握と削減

ヤマハ発動機グループは水資源使用量の削減に努めています。限りある資源の有効利用と、循環利用の促進を目標としており、グローバルな水使用量の把握の継続に努め、工場での冷却水循環化や回収水(雨水など)の利用をはじめ、水使用量の削減に取り組んでいます。

水使用量 **560万** m³

ヤマハ発動機グループ CO₂排出量



TOPICS

MAXシリーズのスタイルを125ccに展開したグローバル・プレステージ・シティコミューター“BLUE CORE”エンジン搭載の「NMAX」新発売

ヤマハ発動機株式会社は、水冷4ストロークSOHC・4バルブ124cm³・FIのBLUE COREエンジンを“MAXシリーズ”のDNAを受け継ぐボディに搭載する新製品「NMAX(エヌマックス)」を2016年3月に発売しました。

「NMAX」は、“Global Prestige City Commuter”をコンセプトに、欧州や日本で人気の「TMAX」、および欧州向け「XMAX」など、MAXシリーズのスタイルと走りの良さを原付二種(125ccクラス)に展開したモデルです。

国内モデルとして初めて“走りの楽しさ”と“燃費・環境性能”の両立を高次元で具現化した“BLUE CORE”※エンジンを搭載。またABSも標準装備しています。



※ヤマハ発動機株式会社は、“走りの楽しさ”と“燃費・環境性能”の両立を高次元で具現化するエンジン設計思想として、2014年より“BLUE CORE(ブルーコア)”を掲げています。この思想は高効率燃焼、高い冷却性、ロス低減の3点にフォーカスして性能実現を図るもので、“NMAX125”のエンジンもこの“BLUE CORE”思想に基づき開発しました。

グローバル環境ISO14001統一認証、さらなる拡張進む

ヤマハ発動機グループでは、『グループ環境計画2020』の重点取り組み分野の1つである『エコマネジメント』に基づき、グループ環境ガバナンスの仕組み強化および環境マネジメント活動の効率的な運用のため、海外拠点を含むグループ会社を対象としたグローバル環境ISO14001統一認証化の取り組みを2012年4月から進めています。

対象となる主な製造拠点は、日本・欧米・アセアン・中国・台湾・インド・南米の各地域に38社あり、2015年末時点で33社が統一認証に参加しています(進捗率87%)。すべての会社の統一認証化に向け、2016年以降も引き続き活動を推進していきます。

また、比較的環境負荷の少ないグループ会社に対しても、ヤマハ発動機グループ独自の環境マネジメント認定制度を導入し、グローバルなEMS活動を推進しています。特に海外のグループ会社に対しては、外部機関を活用したカスタマイズ監査を導入し、実効性と効率面を重視した活動を展開しています。

これらの取り組みを通じて、グループ内の情報共有が進み、各社が抱える環境リスクやEMS運用上の課題が明確になるとともに、グループ環境ガバナンスの面で大きく前進しました。さらに、効率面では、統一認証以前に比べ大幅なコスト低減を実現しています。



YPMVにて、環境ISO14001統一認証導入説明会を実施
YPMV: Yamaha Motor Parts Manufacturing Vietnam Co., Ltd.